

# 監査結果報告書

2026 年 6 月 2 日

社会福祉法人保健福祉の会 殿

監 事 北田喜美代



監 事 佐藤 晃敏



私たち監事は、社会福祉法第 40 条および関連法に基づき 2025 年度（2025 年 4 月 1 日から 2026 年 3 月 31 日）の監査を以下のとおり実施しましたので報告します。

監査日時 2026 年 5 月 26 日（火）9 時 30 分～16 時 00 分

監査場所 都和のはな 3 階会議室

立 会 人 川原法人常務理事、小野介護事業部長、猪熊特養・グループホーム都和のはな管理者、和久田ケアステーション虹の家管理者、京藤青い空保育園園長、谷川あらぐさ保育園園長、福田洛西保育園園長、竹山白い鳩保育園園長、竹内児童支援事業部長、田村法人事務員、松山西の京事務員

## 監査結果

1. 社会福祉法人保健福祉の会の 2025 年度の財産目録及び損益計算関係書類の点検照合を行いました。違算なく合致しており適正に処理されていることを認めます。

## 2. 法人および各事業所

### （1）法人の結果

2025 年度は、保育園の利用状況の見込みによる利用定員の調整などへ対応してきました。また、パーチェ・第二パーチェの事業統合とパーチェ吉祥院開設等の事業拡大を図ってきました。新型コロナウイルスも、引き続き経営に大きな影響を及ぼすなかで、利用者、職員の安全と生活を守るため奮闘している役職員の皆様に敬意を表します。

2025 年度の法人合算では、当期活動増減差額 4,296 万円の黒字となっています。当初の赤字予算より、4,833 万円の増益となっています。保育事業での公定価格の改定分の補助金増による影響もありますが、保育事業の厳しい状況に対して、様々な対応を行ってきた成果だと評価できます。事業毎では、介護事業で▲930 万円の赤字、児童支援事業▲286 万円の赤字となり、保育事業 4,533 万円の黒字でした。保育事業の黒字は、この間の取り組みの成果ですが、引き続き対応をすすめることを期待します。

事業活動のサービス活動収益は 15 億 7,931 万円となり、前年より 4,031 万円（前年比 102.6%）の増収で、予算に対しては 2,101 万円（予算比 101.3%）の超過達成となっています。事業毎には、介護事業 3,101 万円（前年比 104%）の増収、児童支援事業 70 万円（前年比 100.5%）の増収です。保育事業も 928 万円（前年比 101.5%）の増収となっています。介護事業でのコロナによる影響からの回復、保育事業の前年よりの増収は評価できます。

資金収支差額合計では、事業活動資金収支差額は 1 億 1,050 万円で前年より 1,063 万円増加しました。パーチェ吉祥院建築 7,852 万円や保育事業積立金支出 5,200 万円を行い、資金収支差額▲480 万円の赤字となっています。取得手続き、資金も事業活動資金収支差額や設備資金積立の取り崩しで対応しており適切です。

財政面では、総資産は、28 億 7,089 万円で前年度より 5,263 万円の増加となっています。固定資産は、取得資産、積立金等の増加、減価償却の差引でも 7,325 万円の増加となり、負債は、5 億 6,379 万円でパーチェ吉祥院建設による銀行借入れもあり前期より 2,552 万円の増加となっています。



法人運営では、理事会の出席率は88%、評議員会は89%となっており引き続き参加率向上にむけた努力を期待したい。定期に介護事業部会・保育事業部会・児童支援部会が開催され、効率的な運営が行われています。

## (2) 各事業所・施設の結果

2025年度も、介護事業・保育事業・児童支援事業の安定的な運営、利用者の立場に立つ質の高いサービスの提供や幹部職員の配置と育成・職員の育成と労働条件の整備をかねてとりくんできました。以下は、各事業分野での取り組みの結果です。

### ① 介護事業

特養都和のはなでは、入院による長期の空室とコロナ感染クラスターが発生しました。グループホーム都和のはなは、稼働目標を達成しましたが、人員体制の変更で人件費が増加しており検討が必要となっています。老健西の京は、超強化型の基準を維持しています。2025年度は、入所者のコロナ感染発生はあるものの制御しています。介護師長の発令により管理体制が強化されベット調整や職員面接、集団形成が進んでいます。ケアステーション虹の家は、常勤2名の体制となりましたが、非常勤職員の確保には苦戦しています。需要はあるものの職員体制の不足により受入れができない状況があります。今後の検討は、引き続き課題です。

決算の特徴は、サービス活動収益は前年と比較して、特養都和のはなは99.6%、GH都和のはなは102.1%の増収、老健西の京は105.3%の増収、虹の家は91.4%の減収で、合計で104%、3,101万円の増収となっています。当期活動増減差額は、特養都和のはなは47万円の黒字、GH都和のはなは▲225万円の赤字、老健西の京は▲311万円の赤字、虹の家は▲440万円の赤字となり、合計で▲930万円の赤字となっています。

### ② 保育事業

各園で、厳しい体制のなかで、行事や保育に進め方を模索しながら園児一人ひとりを大切に取り組んできました。白い鳩保育園・洛西保育園では、利用定員を100人に変更しています。今後も定数の検討を行っていく予定です。異年齢で過ごす園での生活のなかで年齢を超えた影響が生まれています。いくつかの園で職員同士の関係性や職員支援が課題になりました。

決算の特徴は、サービス活動収益は前年比で、白い鳩保育園、97.6%の減収、洛西保育園92.6%の減収、あらぐさ保育園111.2%の増収、青い空保育園107.6%の増収となり、保育事業合計では、101.5% 928万円の増収となっています。当期活動支差額は、白い鳩保育園348万円の黒字、洛西保育園▲152万円の赤字、あらぐさ保育園1,470万円の黒字、青い空保育園2,868万円の黒字、合計で4,533万円の黒字となっています。

### ③ 児童支援事業

2025年度の大きな事業であったパーチェ吉祥院を開設することができました。事業開始が4月1日を超えたことにより利用者の確保に苦戦しました。パーチェ・第二パーチェの統合も行いました。従来のエリアでの2か所療育継続で課題を残しました。パーチェ管理者の退職により各事業の管理者の大幅な移動を行っています。

利用者状況は、パーチェ年間3,213名（1日当たり11名 前年度比123.6%）、パーチェ梅小路年間2,665名（1日当たり9.2名 前年度比93.9%）パーチェ吉祥院年間1,826名（1日当たり6.8名）、相談支援パーチェ計画相談185件、モニタリング208件（前年度比99.2%）となっています。

サービス活動収益は前年比で、パーチェは131.2%、パーチェ梅小路101.8%、相談支援パーチェ97.8%、合計で100.5%、70万円の増収となっています。

今年度もパーチェ・第二パーチェで拠点区分間での繰り入れを行っているのので一体として見ておく必要はあるが、当期活動増減差額は、パーチェ4,893万円の黒字、第二パーチェ▲3,975万円の赤字、パーチェ梅小路292万円の黒字、パーチェ吉祥院▲1,577万円の赤字、相談支援事業パーチェ79万円の黒字で、合計で▲286万円の赤字となっています。

以上